

市民の目線で市民が発信する
地域情報紙

WEB SHIMIN

<http://shimin.camelianet.com/>

SHIMIN PRESS

市民プレス：第29号

発行人 特定非営利活動法人
「市民フォーラム」

編集人 原 昭 二
制作・印刷 デジタル工房
FAX 048 (476) 9111
〒353-0004
埼玉県志木市本町 5-18-24

正念場を迎えた 米軍キャンプ跡地の 利用計画

昭和四十九年（1974）年、ようやく日本に返還された米軍基地、その広大な土地は、国の施設として、自衛隊が駐留、演習用地、理化学研究所、国立病院となつて国が直接管理してきた。地元の自治体の県と各市は、それぞれ一部の土地を国から購入し、学校、公園、運動場などの建設を行ってきた。

しかし「策定委員会」が報告をまとめている矢先のことだった。今年二月になつて事情が変わってきた。

財務省関東財務局の担当者が市を訪問し、この跡地は、「国が計画する公務員宿舎の移転候補地になった」と通告した。

国の方針の急激な変更により、市当局は困惑、富岡勝則市長は谷垣禎一財務相を訪れ、「計画は地元優先で進めさせて欲しい」と要望した。

国所有地を管理するのは「財務省」である。平成十五年七月のことになる。当局は、国所有地のまま残されていた三十ヘクタールのうち、朝霞市内に残された十九・四ヘクタールを市に払下げ、有効利用したいと、朝霞市に対して、向う五年の中に利用計画をまとめるように求めている。

市当局は直ちに「策定委員会」をつくらせてプランニングに取りかかり、一方市民の意見を反映させるために「市民懇談会」を発足させ、関係者は、計画をまとめるために多大の努力を払ってきた。

「市民懇談会」の参加者有志は、跡地全域を緑地にするため、宿舎移転に反対する三千人の署名を財務省に提出したが、一方議会の「基地跡地利用促進特別委員会」では、6会派のうち4会派が、市の財政上、土地の一部は宿舎として受入れも止むを得ないとの柔軟な姿勢をみせ始めた。

基地に残されたカマボコ兵舎



これまでの朝霞市は、公園、体育館、中学校などの用地として基地跡地を29ヘクタール購入して、すでに234億円をつぎ込んでおり、今後さらに19・4ヘクタール全部を公園用地として購入すると、国に128億円払う必要が生じ、一般会計が現在338億円の市財政負担はきびしいものとなる。

このような情勢で、「策定委員会」の中間報告がまとまった。「跡地の中心部16・4ヘクタールの取得を第一の目標とするが、宿舎の受け入れと、財政確保のシナリオ作成、計画全体の検証は市の判断に委ねる」というものである。市当局や、市民の意向を見極めつつ、今年中に最終報告をまとめるという。

跡地の利用計画はまさに正念場を迎えた。

朝霞二中教諭の中條克俊さんは、地域に古くから住む多くの人々を訪ね、戦前から戦後にかけての変遷を辿り、基地の街だった朝霞の歴史を風化させないことをねがって「君たちに伝えたい朝霞、そこは基地だった。」（梨の木舎 1800円、税別）を出版した。



志木市のいろは商店会主催の第20回「いろは市」は八月二十七日午後、恒例のサンパで幕開け、その他盛沢山のイベントで賑わう。

ゆく夏を惜しむ



埼玉県の指定文化財となった志木市の田子山富士で、山じまい「火祭り」が復活。

新座市大和田の氷川神社境内で、八月二十六日、中野の獅子舞が奉納、披露された。

中野の獅子舞は市の文化財に指定された伝統行事で、五穀豊穡と災厄消除を祈願のため、地域の人々によって引き継がれてきた。



和光市漆台の「ふるさと民家園」（旧富岡家住宅）から新倉小学校を望む

谷中川を挟んで民家園から遠望すると、前方の丘の上の新倉小学校は、4棟の校舎のうち、2棟の建て替えがはじまり、校庭には九月から使用されるプレハブ校舎がつくられた。新倉小学校は古い歴史をもち、満願寺に開設されたのが明治七年で、現在の場所に移つたのは明治三十六年というから、ゆうに百年を越えている。



ふるさと民家園の囲炉裡



由来は江戸時代初期といわれ、京都の熊野神社から拝領した獅子頭がその起源で、男獅子、中獅子、女獅子の三体で、祇園囃子の曲

に合わせて、鼻棒使い、山ノ神、花笠、笛吹きなどとともに舞う。



下に掲げた地図は、大正十三年に発行された地域案内の地図から抜粋したものである。この案内は、それぞれの町の商店を核とした町並と、営業別索引を掲載したパンフレット二枚でできている。この案内では、現在の朝霞、志木市から北上して上尾、桶川、東に向って、所沢、入間川、飯能、小川町（ただし旧称）など、かつての北足立郡の有力な町の街並みをあつめている。

恐らく、民間の広告業者が商店の広告費などをもって作成して配布したものと思われる。したがって広告に賛成しなかったお店は省かれていたと推定されるが、いわゆる大店はほぼ網羅されている。全体像を把握することは可能であろう。

欄外の註によれば、国税年額三十円以上の納付者は、本図にその全部を掲載した、とある。発行所は東京渋谷の「東京交通社」で、東京をはじめ、かなり広範囲の地域の宣伝活動を行っていたようだ。

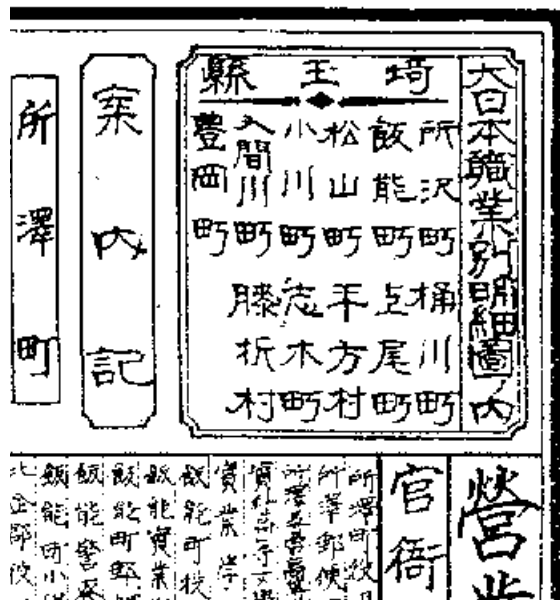
移り変わる時・・・

大正から昭和へ

地図で眺める・・・



その27



大正時代の町並み・・・

職業別明細図から



志木市市制施行 20 周年記念

「ふるさと写真集」から

『昭和初期の志木駅前』

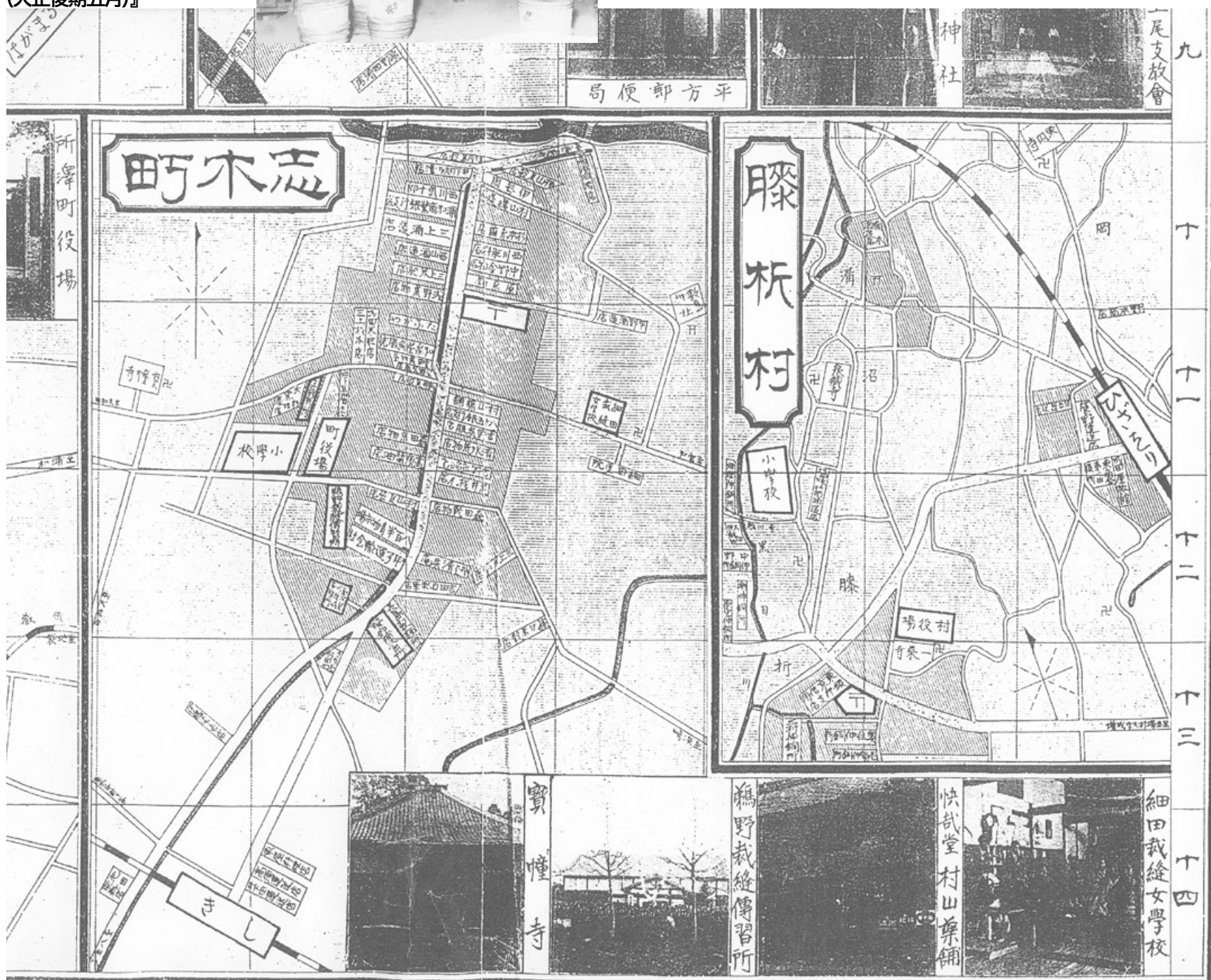
『三上家の酒造蔵の内部』



「ふるさと写真集」から

『二・七の市（植木市）が立った

市場通り（大正後期五月）』



はじめてバスが走った・・・

志木市本町通り

志木市(当時は志木町)の大通りをバスが走ったのは、大正五年(1916)六月だったという(志木市史通史編による)。

東上線の各駅から県庁への近道として

しかも東武鉄道株式会社は、東上沿線の川越、霞が関、坂戸、東松山、小川、寄居各駅などから志木駅を経てこの乗合自動車を利用して浦和町に至る通し切符を「安くして早い近道」というキャッチフレーズで売出していた。

乗合馬車や人力車などが発達していたので、東京市内では、大正八年に東京市街自動車が行った上野・新橋間小川町から県庁に向

志木市は、県庁が所在する浦和(現在は「さいたま市」)に隣接している。普段は気付かないが、例えば寄居や小川町から県庁に向

大正十三年(1924)五月、志木・所沢間に乗合自動車が運行される

志木・所沢間に乗合自動車が運行される

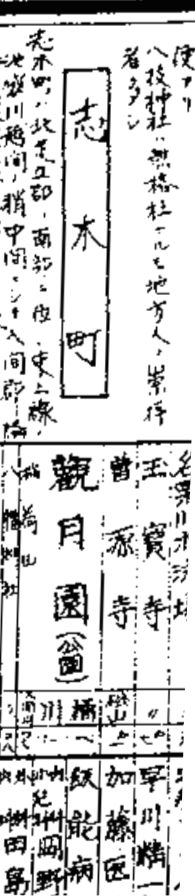
昭和五年(1930)五月、これまでの営業所が狭くて乗降客に不便なため、変更したいという願いが埼玉県知事宛に提出され、栄橋のたもと右岸下流の地が選ばれ、車庫・引返し場所になった。そこはかつて高須家が河岸で船問屋を営んでいた跡地である。

志木・所沢間のバスと、所沢駅で交差している、昭和五年の時刻表によると、本来の大和田回りの志木・所沢線と、清瀬回りの志木・東村山線が、「大」と「清」の記号で区別されている。しかし、二つの路線は同じ「志木・所沢間」の時刻表に記されていて、「所沢・東村山間」の時刻表は別に作られていた。すなわちどちらのコースにせよ、所沢がメインの目標で、その先の分岐点として、東村山があるように思われる。

志木・東村山間の路線図(昭和5年の広告チラシから)

志木川岸の停留所付近

『市場通りから上町方面を望む』(大正十年ころ)



志木川岸からの出発

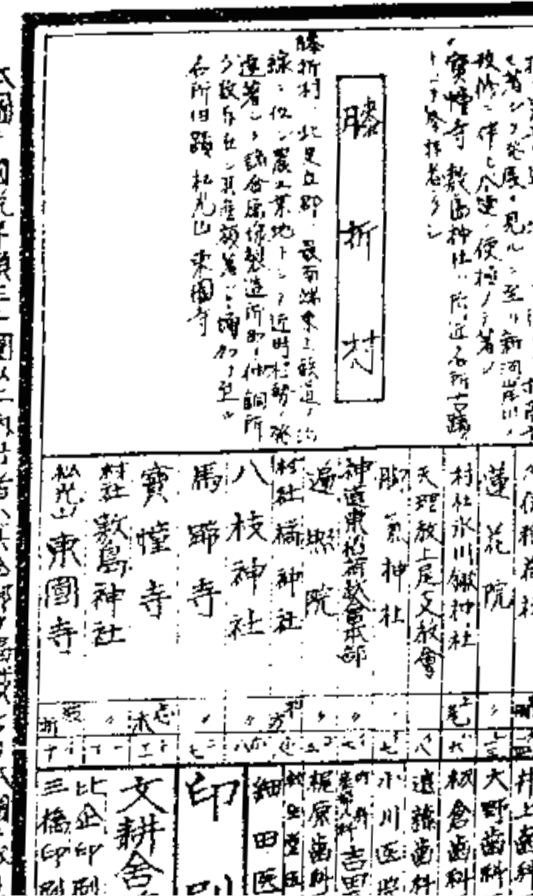
この路線は、昭和五年九月に許可された。コースは志木川岸・志木町・志木駅・野火止角・菅沢・下清戸・中清戸・清瀬駅・野塩・南秋津・所沢駅・東村山である。丁度江戸時代の引又道を経由していた。

資料・安斎達雄「志木を走った黎明期のバス」(「郷土志木」33号、志木郷土史研究会)

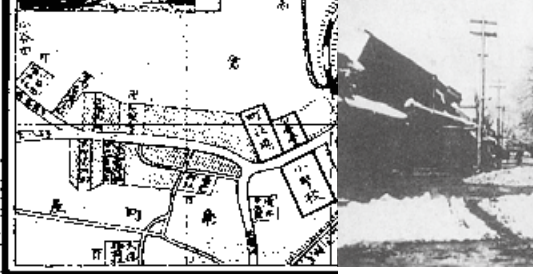
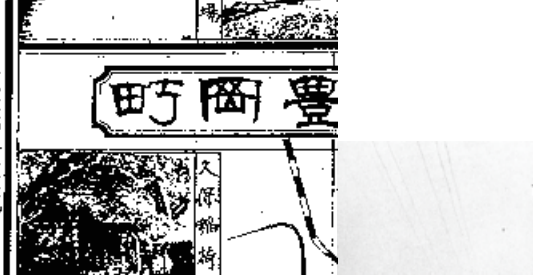
志木川岸の停留所付近

『市場通りから上町方面を望む』(大正十年ころ)

志木川岸の停留所付近



『春の市場通り(大正後期)』



ふるさとのお宝

前ページの「大正時代の町並み」に掲載された施設やお店の大部分は取り壊され、あるいは改装されているが、約八十年を経ても、いまだ変わらぬ貴重な景観に接することもできる。

膝折朝霞市の「塩味醤油造り店」「東円寺」などは現代の宝と云ってよい。志木市の本町通りに面した旧郵便局の「三上家」、「原業局」、「中野金物店」、「村山家」、「西川家」、「浅田家」、「宝幢寺」などには、ほぼ変わらぬ趣きが残されている。

志木郵便局だった「三上家」の土蔵の千本格子(左の写真)。



九十年余りの歴史、地図上では「原業舗」と記された現「原業局」の看板は、数百年を経た櫨の一枚板で、今では素材も、造りも再現は不可能(下の写真)。



かつての志木には有力な酒造所が軒を連ねていたが、「平野酒造店」(かつての志木郵便局を入った奥に在った)の銘酒「喜代泉」の陶製の一升瓶が、関係者によって保存されていた(右写真)。



県指定文化財「田子山富士塚」展

9月13日(水) 11月5日(日) ところ…志木市立郷土資料館

開館9時30分 午後4時30分

展示解説 9月17・30日 10月22日 午前11時～正午

市民文化財講座 9月16日 午前10時～正午

11・12・19・25日 10月2・10・16日

講師は神山健吉氏

富士塚見学会

9月18日 9月24日

定員制 参加費…百円

問合せ先… 志木市教育委員会 生涯学習課

☎048・473・1111 内線3134

地域情報

昨年の受賞者

第9回 全国「叱られて」歌唱コンクール
親子で楽しむ童謡コンサート
9月9日(土)14:10(予定) 大ホール 入場無料

第Ⅰ部 うたのおねえさんによるファミリーコンサート
うたのおねえさん：若山あかり、南宮知子、篠崎仁美(ピアノ)
曲目：清水かつら作品、四季メロデー、パンダラザザコアラほか

第Ⅱ部 地元のごども達や市民参加によるコンサート
(出演) ◇やまや幼稚園有志合唱団 ◇和光市立白子小学校3年生
◇和光市立第五小学校3・4年生 ◇和光市立北郷小学校金管バンド
◇和光市立第三小学校4年生 ◇和光少年少女合唱団
◇和光市立第二中学校吹奏楽部

和光市民文化センター
和光市役所隣り ☎048-468-7771



清水かつら

第9回 全国「叱られて」歌唱コンクール

「叱られて」は和光市ゆかりの童謡詩人・清水かつらの代表作の一つです。

- 本選審査会(こどもの部) 9月9日(土)13:00 大ホール
- 本選審査会(一般・学生の部) 9月10日(日)13:00 大ホール
- 表彰式・発表会・アトラクション 10月15日(日)13:30 大ホール

※いずれも入場無料です。



世界中に愛好家が……

日本古来の植物ギボウシ

日本原産の「ギボウシ」は、いまイングリッドシユガーデンでは欠かさないものになっている。

ギボウシはもと東アジア特産の宿根草で、自生種はほとんど日本産である。その花の蕾が擬宝珠(橋の欄干の上につけた、玉葱を逆さにしたような装飾)に似ていることからこの名になった。「ぎぼし」とも呼ぶ。

百合(ゆり)科の植物で、学名はギボウシ属 Hosta。葉は幅広で大きい。白や紫の花を咲かせるが、花よりむしろ葉を楽しむ。シールボルトがオランダに持ち帰った。強い日光と猛暑は苦手、日

写真はギボウシ



乾燥地でも湿地でも、日向でも半日向でも育ち、病虫害が少なく、品種改良で、大きさや葉の色、斑の入りに変化が付き、鑑賞価値が高まりつつある。交雑し易く、新品種が容易につくられるので、多くの園芸愛好家を引き付けている。

第4号「CREATIVE BOOK 首都圏人」



第1号 [ISBN4-8354-7204-7]
第2号 [ISBN4-8354-7205-5]
第3号 [ISBN4-8354-7213-6]
第4号 [ISBN4-8354-7214-4]
B5版 100ページ、定価・本体 600円＋税
編集：NPO 市民フォーラム
発売：フッキング

暮らしを楽しむ知的なヒントを与える「首都圏人」は季刊で発行しています。
一般書店・楽天ブックスで発売中

特定非営利活動法人 NPO「市民フォーラム」

この法人は地域住民と行政に対して取材活動を行い、報道によって市民の公共参加を推進し、地域内のメディア事業を行って市民のコミュニケーションを向上させることを目的としています。

地域情報紙「市民プレス」はNPO市民フォーラムが編集・発行し、無料で配付します。

◆読者の「オピニオン」意見／考え」を募集します。

TEL 090 (3048) 5502

編集部 原宛にどうぞ